

米國に於ける一歳未満の嬰兒の死亡状況を見るに、年々三十萬以上に上る有様であるが、その九割は直接或は間接に營養の不良とか、貧困であるとか、又は頻繁な分娩に基く結果母體の衰弱して居る爲めである。

尙ほ貧困な勞働者が、多くの兒童を有する場合に一歳未満の嬰兒の死亡に何んな影響を及ぼすものであるか、それを顧みる爲めにはロンドン市に於ける第一回萬國優生學會の席上で發表された、プロエツ博士の調査を見るがよい。

出生第一年度間に於ける死亡率

- 初 兒……………一三%
- 第二兒……………二〇%
- 第三兒……………二二%
- 第四兒……………二三%
- 第五兒……………二六%
- 第六兒……………二九%

- 第七兒……………三一%
- 第八兒……………三三%
- 第九兒……………三六%
- 第十兒……………四一%
- 第十一兒……………五一%
- 第十二兒……………六〇%

此の調査は、一人二人——即ち少數の——兒女のみを有する家庭を除いて、二萬六千の出生に就いてなしたものである。そして右の調査に依る時は、第二第三の嬰兒は最初の一年間は生存するに一番都合の好い状態にあるが、それ以後の出生兒即ち第四兒以後は、最初の一年間だけさへ生存する機會を得ることが益々減じて行つて、第十、十一、十二兒になつて來ると著るしく減じて、十一兒の如きは最初の一年間に半數は死亡し、十二兒に至つては半數よりも多く死亡する。是れは生後一ケ年間の調査であるが若し之れを生後五ケ年間調査する時は、數多く分娩された場合の嬰兒が健康を害せらるゝ状態がもつと明瞭であると思ふ。

その二 産兒制限の社會的必要

米國幼年労働者調査委員書記長ブラチョイ氏は、二母の世話の出来る範圍と、父が生活を支へ得る範圍とを越すならば、その實數の多少に係らず其の父母に對して、過多の兒女としての重荷となる」と云つて居る。斯ういふやうに其の實數の上からばかり極めずに、父母の生活状態が兒童を養育する餘裕のない時は、是れを以て重荷であり、過多の兒女であるとなす人もあり、此の重荷は何にして除くべきかと云へば、それは受胎制限より外に方法が無い。

シツケール氏の如きは、救貧の方法として受胎制度が利用されるべきものである事を論じ、如何なるものに此の制限を施すべきかを決定するのは、貧民の保護者と政治家とであつて、醫師はたゞ其の技術的任務に當るだけであるといふて居る。斯様にシツケール氏は救貧に手術的避妊法を應用することを説いて居るが、バンコー氏は社會的關係に依つて永久性の手術的避妊を行ふことは適當でない、此場合に於ける一時的避妊を説いて居る。

以上は經濟状態の上から、受胎制限が社會的理由とされて居る處のものであるが、ユーゼニツクスの上から受胎制度が社會的な理由にされて居る。即ち惡疾疾患の遺傳性ある者、輕症又は折々發作的に起る精神病患者、低能者、常習的犯罪者等の劣悪な子孫を残さざる爲め受胎制限を施すべきこと

とが論ぜられて居たが、現在では北米合衆國のオレゴン、カリフォルニア、インディアナ、ウィスコンシン、ニュージャージー、コンネリチカット以下十數州は其の法規に輸送管（男性の輸卵管、女性の輸卵管）切斷手術法を設けて、州立監獄、精神病院、低能兒收容所等に收容された犯罪者、常習的怠惰の貧困者、危険な不道德漢、精神病患者、低能者等に之を施して居る。

### その三 産兒制限の個人的必要

個人的に見て、産兒制限の必要を認め得るのは左に列挙するやうな疾病の場合である。

#### 精神病

精神病は醫學上から細かく區別すれば非常に多くの種類に分れる。従つて其の原因も一樣ではないけれども一般的に云へば遺傳に基けるものであることを證明し得ることが多い。尤も精神病そのものが直接に遺傳するといふ事は少なく、何等かの誘因があつた場合に精神病になり易い一種の素質を遺傳するのである。例へば或る非常な精神的打撃に遭遇した場合、健全な人であれば之に堪へて難局を打開することが出来るが、精神病の素質のある人は此の際打撃を受け易く精神病を惹起

し易くなる。

精神病の遺傳率は餘程多いもので、某精神病院の統計に依ると全入院患者の六七%、即ち百人の中六十七人は遺傳的關係を認め得たといふ。此のやうに精神病患者に遺傳關係の多いことは、實に患者其人に取つて不幸であるばかりでなく、又社會の爲めにも深く憂ふべき事である。現在日本に於ける精神病患者の數は七萬人位あるが、明かに統計に示された患者だけであつて、此外統計に加算されない患者も多くあり、それ等を悉く計算したならば十六萬乃至二十萬人にも達するであらうと云はれて居る。近來精神病患者の増加したことは日本ばかりの現象でなくて、他の文明諸國に於ても益々増加の傾向にあり、是れが爲めに國家社會の蒙る害は寔に非常なものである。斯やうに精神病患者が近來に多くなつたのは、世の中が複雑になり、人間の間に競争や闘争が激烈になつて來た爲めもあるが、精神病の遺傳素因が廣く散布せらるゝことは最も重大な原因である。

遺傳は父方からでも母方からでも、同様の程度で子供に遺傳するものである。即ち父が精神病であつても、母が精神病であつても共に遺傳物質は精子或ひは卵子にあつて傳へらるゝ。故に夫婦の何れが精神病であつても、其際に適當な方法で受胎制限を行ひ、劣等な遺傳素質を子孫に傳ふことを豫防するやうにするがよい。

但し一概に精神病と云ふても、其の原因の如何に依り子孫に遺傳性の少ないものもあり、全く遺傳しないものもある。全く遺傳しないものには制限の必要を見ないから、それ等の事は一應よく専門の醫師の意見を叩いて然る後決定するがよい。

### 結核

結核は結核菌の傳染によつて起る病氣である事は説明する迄もない。結核と云へば一般には肺結核とだけ考へてしまふやうであるが、結核菌は決して肺だけを犯すと極つたものではなくて、屢々他の部分をも犯すものである。即ち結核菌の犯す部位に依つて、肺結核、結核性肋膜炎、喉頭結核、腸結核、腎臓結核其他いろいろの病名が附せらるゝ。

結核に罹つた場合に受胎制限を行ふべきか如何の問題は、遺傳學の上からと母性健康保持の上から考へねばならぬ問題である。

遺傳學の上から云へば、結核の親から生れた子供は結核に對する特殊の免疫性を得ると唱へた學者があるが、併し之れは一般の醫學者から承認されては居ない。のみならず、結核の親から生るゝ

子供は却つて結核に胃され易い一種の特異體質——結核體質——を遺傳的に傳へられると多くの學者に信ぜられて居る。そして此の結核性素質を帯ぶる人は多くは腺病質で體格纖弱であり、皮膚はキメが細かく色澤が美しく、顔色なごはほのかに紅を帯びて、頭髮は黒漆のやうであり、眼は涼しいやうに一種の光澤があるから妙齡な婦人なごは極めて美しく見える。殊に此の腺病質の特徴は首は、細長く肩はしなやかで撫で肩と俗に云ふ格好の肩であり、胸廓は狭く腰部は小さく、手足は一般に細長いが多い。徳川時代には此の様な體格の婦人が美人の典型とされた程で、何れかと云へば美の神には恵まる、方であるが、佳人薄命の諺に漏れず短命に終ることが多い。

學者に依つては結核の素質は五代子孫にまでも遺傳すると稱する人があるが、是れは随分極端に誇張された説ではあるが、結核の遺傳の執拗で害の多い事を云ひ現はすものである。それで夫妻の何れか特に母親が結核に罹つたやうな場合に在つては、子孫の爲めを思ふて受胎制限を行ふことは至當な事だと云はねばならぬ。

尤も、前にも述べたやうに結核には極めて多種多様な型があり、又疾病の輕重も極めて複雑であつて、結核は悉く受胎制限を施すことが至當だとばかりは斷言し得ない事がある。例へば呼吸器に

は何等の障碍がなくて腎臓だけが結核——腎臓結核——に犯されて居る場合があつたり、頸部の淋巴腺だけが結核に犯されて居る俗に云ふ「るいれき」なごの場合、或ひは皮膚の結核即ち痕瘡の場合にも、受胎制限を行はなければならないかといふと、さういふ場合には受胎制限の必要を見ない事が多い。果して受胎制限の必要ありや否やを決定するには、病症の種類、現状、豫後、家庭周囲の事情等幾多の方面から考察して初めて決定すべき事である。故に結核に於て受胎制限を行ふには信頼すべき醫師とよく協議の上決定することがよい。

母性の健康保持の上から論ずれば、結核と妊娠とは其の關係極めて密接なものであつて、結核に罹れる婦人は妊娠以前にはさして著明な症状を現はさなくとも、妊娠するに及んで著明に症状が増進することは普通である。斯の如く妊娠に合併せる結核は其の豫後が特に悪いもので、或る學者の統計に依れば病狀の悪くなるものが全妊婦の六五乃至一〇〇%、即ち百人の六十五人乃至百人全部に當る勘定であり、其の内約一〇乃至一二%は不歸の客となるのを免れない。結核を有する妊婦が此のやうに症状の増悪するのは、妊娠に依つて呼吸器を壓迫し、或は胎兒の爲めに母體の大切な營養分を奪はれ、自然と母體の營養が不足になる結果である。

それで、結核症状を有する婦人或ひは現在明かな症状を有しなくとも潜伏性結核の婦人に在つては母性保護の立場から受胎制限を必要とすることがある。但し果して制限の必要ありや否やを決する爲めには、矢張り信頼すべき醫師の意見を叩くことがよい。

### 癩病

癩病はレブラ桿菌の寄生に原因するものである。此のレブラ桿菌が男性の精子と共に女性の卵子内に侵入し、或は卵子自らにレブラ菌が存在して胎児の時代に癩病が遺傳することがあるとは現代の醫學では未だ證明されて居ない。それで癩病は遺傳病で無いといふ事に一致して居る。

癩病は遺傳病ではないが、菌の寄生に依つて起る、一種の慢性傳染病である。何んな徑路を取つて傳染するかといふに癩病患者の鼻汁、患部の膿汁等に含まる、病菌がいろいろの機會に健康者の鼻孔、皮膚の切創等から侵入し、永い年月の間に繁殖してあつた醜惡な状態のものとなるので、他の傳染病と比較したなら其の潜伏期の長いことは實に驚くべきもので、短かい時間で數年、長い場合には十數年を経て初めて病氣が顯はれて来る。

癩病は遺傳病ではなく極めて緩漫に經過する慢性傳染病であるが、併し同一の家系内で屢々繰り

返して發現し、殆んど遺傳病であるやうに代々相繼いで起る事實を見るのは何故であらうか。是れは或ひは癩患者の家にはレブラ桿菌が散布されて居る事が多い爲め、種々の機會に家内のものに寄生する率が多い爲めであるか、或ひは又癩患者の子供は其の病菌に胃され易い一種の特異體質を遺傳されて居る爲めであらうか。乃至は此の兩者共に存するに依りて癩患者ある家系のものに屢々癩病のものが多いのであらうか。兎に角一種の特異體質の遺傳説は今日可なり多くの學者から首肯されて居る説である。

しからば、癩病の患者なごも受胎制限を行ふて、劣悪體質を子孫に遺傳せしめないやうに心掛くの方がよいではあるまいか。尤も癩病に關しては果してその子孫を絶滅する必要があるか否かに就いては、未だ決定的には論ずることは出来ないが、現代の進歩せる醫學を以てしても癩病を治愈せしむることは出来ない状態であるから、此の疾患の重症なるものは自ら顧みて適當な方法で受胎を制限することがよいと信ずる。

### 腎臓病

腎臓病を有する女性も、母性保護の立場から受胎制限を必要とすることがある。

腎臓病と一概に云ふても色々の種類がある。一番多いのは急性或ひは慢性の腎臓炎であつて、尿を検査すれば多量の蛋白を含んで居り、腎臓の細尿管の上皮細胞や、圓柱と稱する病的産物等が出現する。又前に述べた腎臓結核は内科的に治療することは極めて治療の困難な病氣で、腎臓結核を治療するには外科的に腎臓を剔出してしまはねばならぬ程の疾患である。

是等の疾病があつて婦人が妊娠する時は急に増悪することが多く、爲めに生命を奪はるゝやうなことさへ少くはない。それで腎臓病に罹つた婦人は平生注意して、適當に産兒制限を行ひ、妊娠に依つて生命の危険に瀕することを防ぐやうにするがよい。

けれども前にも述べたやうに、腎臓炎にはいろいろの病型があるし、病氣の輕重も一樣ではないから、果して受胎を制限すべきか否かは一に醫師の意見に従ふがよい。

### 心臓病

心臓病は遺傳する病氣ではないから、之れも子孫の爲めに受胎制限を行ふのではなくて、母體保護の爲めに行ふのである。

心臓病にもいろいろあるが、一般に心臓の異質的疾患に罹つて居る婦人が妊娠すれば、心臓は多

くの努力を費して心搏を營まなければならぬから、自然著しく心臓の負擔を増し、遂に負擔に堪へなくなつて妊娠中に死亡する例が往々ある。慢性心臓病の婦人が妊娠すれば、百人の中四十人位までは妊娠の經過中にか、或ひは産褥中にか斃るゝに至るものであると云ふて居る學者があるが、餘程誇大されて居るやうにも思はるが併し或る程度までは事實である。故に若し慢性の心臓病を有する婦人は輕快に至るまで受胎制限を行ふ事が必要な場合がある。

但し心臓病と稱しても、神経性のものであつて心臓の力に何の變りのないものは、勿論受胎制限の必要を見ない。受胎制限の必要があるか何うかは、矢張り醫師の意見を徵するがよい。

### 脚氣

脚氣の輕症のものは恐るゝには足りないが、重症のものは屢々脚氣毒素が心臓を冒して心臓麻痺を惹起することがある。所謂脚氣衝心である。そして此の恐るべき衝心は妊娠の後半期に起り易いものである。それに妊娠の爲めに脚氣は起し易い傾向もあるから、平常二重症の脚氣に冒さる習慣のある婦人は、大に注意をしなければならぬし、又時に依つて受胎制度をも行はねばならぬ。

骨盤狭小

骨盤狭小と云ふのは骨盤の下方の出口が小さくて、分娩に際して胎児が産道を経て外部に出ることの出来ない程度のものである。

骨盤狭小の婦人が妊娠をすれば、正常に分娩することが出来ないから器械を挿入して無理に胎児を引出すか、時に依ると子宮内に器械を挿入して胎児の生命を奪ひ、身體を小さく打ち砕いて取り出さなければならぬこともあり、胎児を満足に生かそうとすれば、母親の腹部を切開し子宮の壁をも切開して胎児を引出さねばならない。

骨盤狭小の婦人には斯うした危険があるが、素人で骨盤狭小であるか何うかを確定することが出来ないから、若し骨盤狭小の疑ひがあれば産科婦人科の醫師の診査を受けて、場合に依つては受胎制限をも行はねばならぬ必要がある。

微毒

微毒は「スピロヘータ・パルリダ」と稱する病原體に依る疾病で遺傳もする病氣である。遺傳微毒即ち先天微毒は父親或は母親乃至は父母の双方から子供に遺傳せしむるもので、胎内に在つて

死んでしまつたり、或ひは死んで生れたり、生命があつて生れて來ても極めて虚弱であることが多い。

微毒に罹つても今日は充分治癒せしめ得る方法がある。即ち微毒には六〇六號と云ふ特效薬があるのであるから、充分治療する事は勿論必要であり、微毒が未だ充分治癒しない内は病毒を子供に遺傳せしめないやう適當な方法で受胎制限を行ふことが必要である。

其他の諸病

今迄に説明した疾病の外、受胎を制限すべきものとして考慮すべきは、アルコール中毒症、癲癇重病後の衰弱せる時期等である。併し是等は勿論必ずしも制限を必要としない事もある。要するに程度と状態とに就いて鑑むべき問題である。

その四 如何なる時に妊娠し易きか

妊娠に容易なる時期

如何なる時に妊娠し易きかを考察するのは産兒制限とは反對するがやうに見えるが、妊娠し易き

その四 如何なる時に妊娠し易きか（妊娠に容易なる時期）

諸條件を知ることを得れば是れを轉換して避妊を避くる爲めにも利用する道なしとせざるものである。

最初に考へねばならぬ事は、

人類に受胎日 ありや否やの問題である。換言すれば性的行爲に依りて避妊する定まれる日がありや否やといふ事である。此の問題は排卵の時期並に男女両性の生殖細胞の受胎能力の持続期間が明瞭となれば、自から解決される性質のものである。

荻野博士の最新の研究に依れば、排卵の時期を豫定月経前第十二日乃至第十六日の五日間と定めた。そして排卵と豫定月経との時期的關係は常に一定せるものであつて、月経周期の長短や、整、不整に依つて些かも動搖するものではないと斷言して居る。即ち月経が三週間目毎にある人でも、五週間目毎にある人でも、始終不順な人でも必ず次に現はれる月経の前、第十二日から第十六日の間に排卵が起るといふのである。

それから精子の生活能力であるが、これは比較的強いものであつて、射精された直後の液を乾燥せしめないやうにして卵子器に貯へると、精子は約一週間は生存して居る。併し異性の機關に侵入したものは卵子器の場合とは自から異なるものである。元來精子は弱アルカリ性のものに於ける場合最もよく生活能力を發揮するものであつて精液は「アルカリ」性反應を呈するものである。然るに腔内容は健否或ひは妊否等に依つて其の生物學的性状を異にする爲め、一概には云ふことが出来ないが、一般に月経でない健康なそして避妊して居らない婦人に於ては酸性反應を呈するものであるから、此のやうな腔内に於ける精子は通例二、三時間長くも十二時間以上は生存することが出来ない。

子宮頸管の正常なる分泌物及び子宮腔内は、アルカリ性を呈し精子の生存には絶好な條件を備へて居るが爲めに、子宮内に入つた精子は三日以内は確實に生存して居る確證がある。併し既に八日を経過すれば恐らくは死滅するものと見られて居る。輸卵管に進入した精子の生存を證明された例は僅少であつて殊に健全にして開放してある輸卵管に於て證明されたものはないが、三週間半の長きに亘つて生存した精子を認めた報告がある。

要するに婦人の機關内に入つた精子は普通には三日間の生存を維持するに過ぎず、例外的に四日乃至八日間に亘つて生存することがあるといふのが一般の解釋である。



最後には卵子の受精能力であるが、排卵後卵子の受精可能期間は幾何あるかの測定に關しては人類に就ては未だ其の實例がないが、若し動物に於ける實驗の結果を人類に適用することが出るとしたならば、その期間は極めて短かいもので僅かに數時間に出でないものである。

以上の排卵の時期、精子の無存期間及び卵子の受精能力の持続時間の三者を綜合して考察するならば、受精日の決定は敢へて困難ではないと信ぜられる。排卵時期は荻野説を信用されるものとする、豫定期前第十六日乃至第十二日に當る。卵子の受精可能期間は僅かに數時間であるものとすれば、之は問題にはならない。精子の生存し活動するのは通常三日間である。斯うして來ると受精日は排卵期に先立つこと三日即ち豫定期前第十九日乃至第十二日である。精子が稀に四日以上八日以内生存し活動して居るとすれば、豫定期前第二十四日乃至第十二日の期間に受精の日は限られることになる。

是れを是認して月經と受精日との關係を述べると、月經周期が二十八日毎の人は月經を四日間と見做して、先づ前の月經の終つた直後（豫定期前第二十四日から）から妊娠の可能性が起り、五日程経てば（豫定期前第十九日）最も可能性大なる時期に入り、これが八日間續く、それで次

に來るべき月經から前に勘定して十一日目からは全く妊娠しない期間に移る譯である。

是れは排卵に於ては荻野説を是認し、精子の能力存続に就いても三日としたものであるが、實際には荻野説は果して動かすべからざるものであるか何うかまだ判らない。従つて必ず此通りの事が實際に當て嵌るか何うか俄かに判断する事が出来ないが参考としては價値のある事である。

#### 妊娠に容易なる體位

體位に依つて妊娠が容易なると容易ならざるとがある。

膈腔内に射精された時は液は後膈穹窿部に瀦溜する。此の部は可なり廣潤な凹部であるが、子宮の位置が正常な時には此の部分に對して略直角に子宮膈部が突隆して居り、容易に精子を子宮内に進入せしめ得るものである。解剖的な構造が既に精子の進入を容易ならしめて居るばかりでなく、女性が×××子宮は收縮して少しく下降し、頸管の腺から分泌されて頸管を充塞せるクリステル氏の粘液栓の中に精子を吸引し、精子が頸管内から子宮腔、子宮腔から輸卵管へと溯行する。それで、受精するに最も都合のよい婦人の體位は射出された液を、後膈穹窿部に保存するに都合のよい體位でなければならぬ。それには仰臥位であると共に骨盤高位なる事が必要である。

その四 如何なる時に妊娠し易きか（妊娠に容易なる體位）

### 精子の活動性

精子の色とか硬度とか或ひは臭氣等は受胎能力には影響することはない。受胎の上に最も必要なのは精子の數と其の活動性である。

伊太利の性學者ローデ氏は、或る一人の男子に就いて四十八時間内に一定の時間を隔て、六回精液を探り精子の數を調べた所、第二回は第一回より、第三回は第二回より其數次第に減じ、第六回目には精子の中影だも見る事が出来なくなつた。それから精液採取の間隔を延長したところ、一週間乃至十日の間隔を置いた場合に精子の數が最も多くなり、それ以上の間隔を置いても精子の數はそれよりも別に増加はしなかつた。

此の實驗は性的行爲と妊娠との關係をも暗示するものである。頻繁に精液を漏らすことは精子の數を減少せしめて受胎の能力を少なくするが、適度な間隔を置く時は精子の數が多く従つて受胎能力は増加する。然れども或る程度——七日乃至十日——以上の間隔を置いたとて精子の數が特別に増す譯でもなく又受胎能力も増す譯ではない。

### その五 制限法の實際

如何にすれば受胎が制限されるか。受胎制限の方法は勢ひ次の諸項に該當するものとなるであらう。即ち、

- (一) 精子を全然腔内に入れぬ事
  - (二) 腔内に入った精子を直ちに殺滅するか又は除去する事
  - (三) 子宮口を閉塞して腔内に入った精子をそれより内に進入せしめぬ事
  - (四) 輸卵管を遮断して卵子と精子とを會合せしめぬ事
  - (五) 卵子の着床する子宮の粘膜乃至子宮全體を廢棄する事
  - (六) 卵子の發生する卵巢の機能を奪ふか或は全然卵巢を剔出してしまふ事
- である。尤も是れは理論の上から分類したものであるが、方法を現はす名稱の上からすれば脱出法、射精防禦法、密蔽法、充填法、藥物挿入法、コンドーム法、洗滌法、別居法、永久避妊法、ラヂウム應用等にも分つ事が出来るであらう。

(イ) 一時的避妊法

醫師に就くを要せざるもの

禁慾

受胎制限として最上であり絶対に確實なものは禁慾である。併し是れは超人的に意志が強固なものでなければ云ふべくして行はれ得るものではない。

脱出法

是れは一般にはオナンの法と呼ばれる。オナンといふのは舊約全書の創世記第三十八章に出て来るユダの次男で、彼の兄エルが罪を犯してエホバから死を賜はつた時、「茲にユダ、オナンにいひけるは汝の兄の妻の所にいりて之を娶り汝の兄をして子を得せしめよ。オナンその子の己のものとならざるを知らば、兄の妻の所にいりし時兄に子を得せしめざらんために地に洩したり、斯くなせし事エホバの目に悪かりければ、エホバ彼をも死せしめたまふ」とある。これから出でた名稱である。

極めて原始的な簡単な方法で、何等特殊の器具も薬品も必要とはしないから廣く行はれて居るやうであるが、併し確實に有効であるとは云はれない。何となれば頂點に達した強烈な牽引する力が中絶しやうとする意志よりも強い場合に遭遇する事が多いからである。それで生殖素が外的機關に洩らされてしまふ事もあらうし、それが假令量に於て少ないものであつたとしても、其の爲めに全然裏切られた失敗の結果になることがある。

紐育母體健康委員會の報告に依れば此法の効果は教養に關係する處が多く、女子大學出の教養の高い女性間で百分の約十三、婦人健康相談所に来る一般の女性間で百分の約七十の失敗率であつたといひ、又デーヴィス女史の調査では百分の約十、ヘーア氏の調査では百分の七十の失敗率である。

此方法は斯やうに不確實であるばかりでなく、又當事者間の健康に關して問題とされて居るものである。快美感覺が頂點に達し將に射精を來さんとするに際して行爲を中止するのであるから、繼續して屢々行ふ時は男子に對しても女子に對しても心身に害を及ぼすものであるとされて居る。特に女性の側に影響が甚だしく、精力の強い女性の訴ふる處によると、此の方法を行つた後には強烈

な腰痛や背痛が起り、それが数時間乃至数日間續く事さへ屢々あり、劇しい精神の興奮状態とそれに續いた長い疲勞を伴ふことがある。是れは正常の行爲に於ては自然の満足を來すと共に、緊張が弛緩し充血が消散するのであるが、此の方法に依る時は動もすれば生殖器に炎症を來し、加ふるに性的に満足を得られない爲めに遂に神經衰弱乃至はヒステリーに陥る虞がある。併し性感の缺乏して居る女性に在つては此の弊害も余り多くはない。

### 射精防禦法

名稱の如く射精を防禦する方法であるが、必ずしも精確ならざること、弊害あること、は殆んど前法と似て居る。

### コンドーム法

最も普通に行はる、方法である。囊壁の薄く弾力ある護膜或は膠様質又皮膚にて作られたるコンドームを用ふるもので、前記の方法より有効であるが此方法は快感を殺がる、といふ理由から男性側から忌避さる、事が多い。併し今日にては堅牢で精巧な製品が生じて居る爲めに、此の缺點は非常に尠なくなつた。早い時代のもものは護膜製品で厚さも〇・一ミリ位はあつたから、快感を殺がれ

るといふ點は充分認められた。けれど今日の精巧なものは若い羊、牛、稀れに山羊、鹿等の盲腸の結締織層から製したり、又一層進んだものは魚類の浮腫であるから、其の厚さも極めて菲薄であつて僅かに〇・〇三ミリあるに過ぎない。護膜製品の三分の一の厚さであるから快感の減殺される點は尠なくなつた。只護膜製以外のものは比較的高價であるが、自然に接觸すると殆んど等しい状態にありたいとすれば高價も止むを得ない事である。

コンドームの使用に關して多少の注意を述ぶるならば、製造後余り時日の経過したものは脆弱になつて役に立たなくなる。殊に護膜製品は時日の経過するに従つて脆くなり、直ぐ破れるものであるから、製造後一ケ年を経たものは使用を避けなければならぬ。動物物ものは古くなれば硬くなつて裂け易くなり、折り目に穴があいたりする。新しいもの、中にも破損したもののある事もあるから、使用する前に充分注意して調べなければならぬ。小さな穴のあるのを知らずに用ひて失敗した實例もある。又護膜製品の場合には消毒殺菌の効果を有ゆる薬品を配伍された滑劑を撒布して置く必要がある。これは不快な摩擦を防ぐ爲めと、保存中護膜壁が密着して破損するのを防ぐ爲めとである。

又使用する際には先端に適度な空間を存せねばならぬ。これは射出された液を受容する余地を豫め作つて置く爲めである。

### 洗滌法

これは行爲直後に膈内を洗滌する方法であるが、これも精確に目的を遂げ得るとは云はれない。畢竟残された精液を流失せしめたり、精子の活動力を奪つたり、その子宮内に進入するを妨げたりする爲めに洗滌するのであるが、屢々其の目的が達せられない事がある。ローレデル氏は受胎制限の目的を以て洗滌するには必要な條件が二つある、一は體位であつて坐位乃至立位に於て行ふこと、二は洗滌の方法であつて、洗滌の嘴管を廻轉せしめて膈の全部をよく洗滌せしめねばならぬこと、此の二つの條件を缺くに於て無効となる率が多いと云ふて居る。併し普通の洗滌嘴管を用ひては假令坐位にしる立位にしる、充分に洗滌の効果を擧げることには出来ない。それで獨逸あたりでは特別に製造された嘴管がある。精子は普通の水であつても水中にあつては間もなく活動する力を失ふものであるが、酸性の液體であれば更に一層よく其の活動力が奪はれる。洗滌にはその點を利用して適當な薬剤が用ひらるゝ事も行はるゝ。

歐米では洗滌法が可なり行はれて居る。併し日本では家屋の構造の點で其の實行が甚だ困難である爲め、決して一般向きな方法ではない。殊に此法は行爲直後に行はねばならぬことが、實際に於ては著しい缺點として數へねばならぬ程、性的生活の感興を害ふものである。又假令直後に於て洗滌したとしても精子は既に頸管内に進入してしまつた後である事もあり、洗滌法が確實な効果のあるものであるとは斷言することは出来ぬ。

### 座薬挿入法

洗滌法は特殊な設備を必要とし、且つ性的生活の感興を妨ぐる事が多いから、是れに代はるべき簡易な方法として案出せられたるものは、即ち此の座薬挿入法である。座薬は××××の如き精子の活動力を奪取する薬物を主成分とし賦形薬を混じて製したもので、性的行爲三十分前頃に膈内に深く挿入するものである。

以前は賦形薬としてカ、オ脂が用ひられて居たものであるが、脂肪質は溶解が遅く且つ精液に完全に結合しない缺點があるので、近來は精子の活動力を抑へ或ひはそれを奪取する作用ある薬物に殺菌性を有すると共に泡沫を發する薬物を加ふる事が行はれて居る。何の爲めに泡沫を廢するもの

を選ぶかと云へば、微細な泡沫が腔内及び子宮外口をも一面に覆ふて精子の頸管中に進入するを妨ぐるからである。

座薬法は洗滌法の如きものに比較して甚だ簡易であると云ふ便利はあるが、婦人自身が充分腔内深く挿入することが出来ぬといふ不利益がある。此不利益を除く爲めに特殊な器械が用ひらるゝが、器械で補ふ事の出来ない缺點がある。即ち腔の分泌物が少ない場合には、挿入した薬剤が充分溶解しない爲めに効果が不確實な事がある。座薬には此の障害があるから、固形體な座薬でなく半流動體な薬剤をチューブに入れ、チューブには振子で嘴管がついて居て薬液を腔内に深く送入することが出来るやうになつて居るものがある。

併し此の方法もつまり洗滌法と同じやうに、屢々無効に歸することあるを免れない。即ち行爲中精子が充分藥物の作用に觸れないで、早くも粘液栓に附着して頸管内に吸ひ止まれる事がある。それは畢竟するに殺菌劑の毒力が、或る程度にしか強めて用ふる事が出来ないのに原因する。毒力を非常に強めるならば精子に働く作用も従つて峻烈であらうが、其の爲めに腔の粘膜炎が犯される危険があるから、或る程度以上には強いものを用ふることが出来ない。

### 別居法

従來の統計からすれば、妊娠率は月經後の前半期に高く後半期に低いといふ事實から推して、受胎日は月經後の前半期にあると豫測し、此の時期別居する方法であるが、併し是れは従來の統計に於て妊娠率が一方に高く一方に低かつた事實はあるとしても、それを以て直ちに妊娠は月經後の前半期にばかりあるものと断定することは出来ぬから、確實性を有するものとは云はれない。

### 醫師に就くを要するもの

以上に述べた方法は充分確實性を有するものではない。それで成るべく確實性あるものに爲さうとして試みられたものは、子宮の中或はそれを通つて精子が更に侵入せんとするのを防止する方法で、是れに亦いろいろの方法がある。

### 密蔽法

是れは腔穹窿部を密蔽するものであつて、縁のない帽子様の形の護膜膜即ち子宮帽と稱するものを使用するものである。子宮帽には様々の種類があり、その一種のものでも又大小種々の大きさがあり、使用する人になるべく不満を與へぬやうに心掛けられて居るが、併し誰でも使用し得るか

云ふとさうは行かない。子宮腔部が腔腔に充分廣く突出して、此の帽を用ふるに都合のよい状態の人にしか用ふる事が出来ない。

使用することの出来る人であつても、尙ほ矢張り多くの不利益の伴ふのが常である。先づ第一に病的な分泌物のある婦人は是れを用ふの事は宜敷くない。理由は密蔽された爲めに滯溜した分泌物が、分解して不快な刺激性を有する悪臭を放ち、殊に腔の炎症を惹起せしむるからである。第二は以前はそれ程分泌物のなかつた人でも、其の装置に依つて分泌物を生じ帯下を見るやうになる事が尠くない。又第三には、其の装着に絶えず醫師の手を要する不便がある。若し自身に熟練して自由に装着し又取外すことが出来るならば、可なり良い方法である。それは毎日取外して清潔にし必要に臨んで装着するならば前に述べたやうな種々の弊害を除く事が出来るからである。

けれども、多くの人は自身で自由に装着する事は出来ないが、月經の始まる時乃至はその多少前に必ず取外さなければならぬ。そして月經の終つた後には醫師に就いて装着して貰はねばならぬのである。

密蔽用の帽は護謨製品があるばかりでなく、アルミニウム、銀、金、セルロイド等で製されたも

のがあるが、其の効果便不便等の點に於ては護謨製のものと大差はない。但し是等の帽は如何に正しく装着せしめても位置が移動して最初の目的を果さない場合もあるから、是れも絶対に確實だとはされない。

### 充 填 法

是れは特に製造された器具を子宮口に充填する方法で、此方法に用ふるものとして象牙、アルミニウム、銀、金等で作つた桿状ものが用ひられる。此の桿は子宮體の中に入るべき肥厚した部分と頸管内に入る薄い部分と子宮外口を塞ぐ板との三部分から出来て居る。歐米では此の器具が可なり使用されて居るけれども、決して無害なものとして推奨する譯には行かぬ。其使用の爲めに屢々子宮内膜炎、子宮實質炎等を惹起する事があり、是れを用ふる事は持續して子宮を刺戟するが爲めに子宮痛の原因となる事があるとも云はれて居る。故に多少でも疼痛を覺ゆるとか帯下或ひは出血でもあるやうな場合には、必ず抜き出してしまはねばならぬ。また月經が閉止した場合にはもう充填して置く必要はなく、徒らに充填して置いては器械的の刺戟の爲めに却つていけない事があるから其の場合にも拔出してしまはねばならない。

一時的レントゲン去勢

是れは卵巣に弱いレントゲン線を照射して一時的に受胎を制限しやうとする方法である。濾胞がレントゲン線に反應する場合は、充分成熟した濾胞及び發育濾胞と未だ發育を始めない原始濾胞との間には相違があり、成熟濾胞及發育濾胞が最も鋭敏に反應し、原始濾胞はそれに感ずることが無い。故に弱いレントゲン線を用せしむれば、卵濾胞の大部分を破壊し排卵を止め只幼弱な原始濾胞だけが保存さるゝ事となるから、此の方法は母體には安全であり、極めて簡単に且つ短時間に施すことの出来る便利がある。

けれども是れを實際に施すには中々理想通りには行かない。何れだけのレントゲンの量を掛くかといふ事は、ザイツ氏はそれを定めてあるが、是れを配置するのが困難で若し量が少なければ只數ヶ月間月經が無くなる結果だけしか來さず、多かつたら永久的に不妊となり、一層多かつたら卵巣機能の廢絶の結果脱落症狀を來すことになつてしまふ。今の所では何れだけのレントゲン照射で何れだけの年月効果があるかは未だ不明である。

一時的避妊手術

是れにはいろいろの手術がある、併し是等の手術は一時的のものでなく永久的の避妊になつてしまふ事が多い。

(ロ) 永久的避妊法

男性に施すもの

睪丸剔出法

是は精子の産出器官たる兩側の睪丸を完全に剔出する方法である。さうすれば避妊の目的を完全に達し得るものであることは云ふ迄もないが、併し之れには幾多の缺點があるのを免れない。先づ第一に睪丸は其の生理的作用として單に精子を産出するばかりでなく、其の間質細胞は内分泌をなすもので所謂睪丸のホルモンが其所から産出し、それが血液中に送らるゝ。一體此のホルモンは男性をして其の特徴ある肉體的に精神的に發育をなさしむる極めて重要な働きを有するものである。それであるのに、若し睪丸を兩側共完全に剔出すれば、忽ちにして此の貴重なホルモンの缺乏を來し其人は漸次に肉體的にも精神的にも變調を帯ぶるになり。男性でありながら男性とも女性ともつ



かない性質のものになる。之れを脱落症状と稱する。第二には睾丸を剔出してしまへば其後に至つて幾ら妊娠を希望しても決して妊娠しないから、一時的の避妊希望者には行ふ事は出来ない。

### 輸精管結紮法

睾丸から精液を輸送する管である兩側の輸精管を結紮する法である。精液を輸送する管を完全に結紮すれば、何んなにしても精子が體外に射出さるゝ事が無いから受胎を制限する目的を達し得る點から云へば極めて確實であり、且つ此の手術は局所麻酔で容易に行ひ得るものであるが、矢張り種々の缺點を有する事は免れない。

ウキン大學の教授スタイナーハ氏の所謂「若返り法」と稱するものは、此の輸精管結紮法であつて、輸精管を結紮する時は今迄睾丸に於て精子を産出する爲めに費されたものが、ホルモンの産出に割當てられる關係から、ホルモンの産出量が多くなつて、自然之れに依つて若返へることが出来るといふのであるが、併しスタイナーハ氏の所期したやうな若返りの結果を得ないことは其後の諸學者が研究を發表して居る點でわかる。是れは單に若返りの結果を得ないばかりでなく、漸次睾丸の機能も凍衰するとさへ云はれて居り、此點は避妊法として施した時でも睾丸剔出と同じやうな影

響を漸次及ぼさないと限らない。

### レントゲン線照射

睾丸をレントゲン線で照射する方法である、詳しい事は女性のものと一緒に説明する。

女性に施すもの

### 卵巢剔出法

卵巢を兩側共剔出する方法である。之も睾丸剔出と同じく確實なる方法ではあるが併し種々の缺點のあるのを免れない。其の最も重大なるものは、女性の卵巢は男性の睾丸に於て精子を産出するやうに卵子を産出する以外に、矢張り其の間質組織から一種のホルモンを産出して血液中に送るものである。男性の生殖腺のホルモンは男性の性徴に密接な關係があると同じく、女性の生殖腺である。卵巢のホルモンは女性の性徴に多大の關係があり、女子が豊圓優雅な肉體を有するものも、月々に月經が現るものも、又女性の温性に富む性格も、皆ホルモンの刺戟に原因して形成さるゝのである。然るに若し兩側の卵巢を完全に剔出すれば、此の重要なホルモンの産出が途絶する爲め、肉體的にも精神的にも漸次に變調を來して、中性に近い状態となる、之れを卵巢ホルモンの脱落症状

その五 制限法の實際(ロ)永久的避妊法

と總稱する。

次に男性の睪丸剔除は陰囊を切開して剔除するのであるから、開腹手術ではないが、女性の卵巢剔除は必ず「開腹術」を必要とする爲めに、他の方法より大がかりになり、犠牲を拂はなければならない点も他の方法より大である。

#### 輸卵管結紮法

卵巢で産出された卵子を子宮の方向に移動せしむる通路である輸卵管を結紮する方法である。此方法は確實な効果があるやうに見えて居て、実際には動もすれば手術の後に妊娠するやうなことがある。それで今日では輸卵管を結紮する代りに全部切除するか、輸卵管の一部を切除して断端を完全に腹膜外に埋没する方法が實用される。

#### レントゲン線照射法

手術的方法は何等の危険がないとは保證されない。又女性の避妊の手術をするには必ず入院して身體を安靜にして居なければならぬ等、相當に犠牲を拂はなければならぬ。故に現在では手術よりもレントゲン線の照射法が歐米諸國に於て行はれて居る。

レントゲン線照射法は、女性に於ては卵巢をレントゲン線で照射する方法であるから、何等の危険も苦痛も伴はず極めて簡易に行ひ得る利益があるが、一時的レントゲン去勢の部に於ても述べたやうに照射の程度を正確に決定し難い缺點がある。若し照射の度が充分でなければ卵子（男性に於ては精子）を死滅せしむる事が出来ず、又萬一照射の度を過せば卵巢（男性に於ては睪丸）の實質を害してホルモンの産出を絶滅せしめて、脱落症状を惹起するに至る。

#### ラヂウム應用

又百ミリグラムのラヂウムを十四時間より二十四時間應用して、月經を閉止せしめ避妊の法を行ふ。

#### 實行法の歸結

眞に受胎制限を必要とする人の爲めに、私は其の實行法の概略を説明した。私の考へは眞實に正當なる理由と條件とを具備する人にのみ此法の實行を勧むるのであるが、併し動もすれば悪用され亂用さるゝ弊害がある故に、甚だ明瞭には實行法を記載することを憚つた。

けれども、實行法には各長短ありて、其の何れを選むかと云ふことは相當に考へなければならぬ

その五 制限法の實際（實行法の歸結）

い問題である。其の實行法を選ぶに條件として必要な事は、

- (一) 絶対に確實であること。
- (二) 有害な作用を毫も伴はぬこと。
- (三) 性生活の上に不快な感じを起さぬものなること。
- (四) 容易に實行されるものなること。
- (五) さして費用を要せぬこと。

此の五箇の條件は必ず必要なことであるが、併し此の條件を完全に具備するものはない。現在に於ては容易であつて安心して施され得る完全な方法は無いと稱してもよい。一般の人はさういふ簡便な方法があると思ふのは誤りで、簡便で絶対に確實な方法は決してない。若し實行法を選ぶなら前掲の條件を具備するに近いものを探ふより外はない。

## その六 英米に於ける産兒制限運動

### 英京ロンドンの制限運動

英國では一八七〇年代ブラドラフとアンニ・ベサント夫人が産兒制限のバムフレットを公刊して狼狽罪で投獄され、後、無罪放免になつたが、是れは随分問題の種を蒔いた。

又三〇年代から存する「新マルサス協會」はドクトル・ドライスデル一族を中心に今日迄熱心に事業を續けて來て居る。此派の主張は産兒の調節と人に制限とを結び付けて居るのが特徴であつて、此協會に屬した診療所が設けて在る。

理學博士マリー・ストープス女史は一千九百二十年三月よりロンドンマイルボロ街に診療所を設けてあり、毎週午前九回午後三回夜間一回執務し、産婆二名は不斷詰め切つて居り、女醫一名は週一回出勤する。疾病の場合は其女醫が擔當する。照會は無料自由だが未婚の女は受附けない。それから未産婦は醫師を振出ける。必要品購入は藥屋の所在地と定價表を記入したボスターを會員に與へてそれら紹介する。

### 米國に於ける制限運動

米國産兒調節聯盟の總本部は、紐育の商業地域の一摩天樓の中空近い所にある。そのサンガー夫人の事務所の隣室に通りの婦人科的診療設備を調べて、女醫ドロシー・ボツカー女史が陣取つ



郵便かはき

東京市神田區表神保町二番地

株式會社 南海書院行

一錢五厘切  
手をおはり  
下さい……

昭和二年十一月十七日印刷  
昭和二年十一月二十日發行

性愛研究と初夜の知識  
附、避妊の要領

定價金壹圓八拾錢  
拾萬册  
特價金壹圓參拾錢

著作  
所有

著者	醫學博士 羽太銳治
發行者	東京市神田區表神保町二番地 株式會社南海書院
代表者	近藤久男
印刷者	東京市神田區表神保町六番地 遠藤男
印刷所	東京市神田區表神保町大番地 稻門社印刷所

發行所

東京市神田區表神保町二番地  
株式會社 南海書院

電話神田一三三三番  
接替東京二二二八番

著者と職業

本書の著者は左記疾患の診察を職業とする

性病及病的性慾

慢性淋疾、梅毒  
男子性的不能症  
女子性的不感症

▲診療時間 午前及午後四時より六時  
東京本郷區眞砂町三七番地  
にいづま醫院内

醫學博士 羽太銳治

北海道帝國大學教授  
松村松年先生著

科學者が  
宗教界への爆弾

それ史上に見よ。——宗教的信仰の盛んなる國家は必らず衰へ、民族は必ず滅んで居る。往昔愚昧の人類は宗教的信仰に據つて或は謂れなき慰安を得たかも知れぬ。然るに現代人は、大磐石の如き根柢の上に建つ科學を知る。いかでか浮雲の如き宗教を信する事が出来やうぞ。  
スフィンクスの迷題に苦しみ、ドグマに頼らんとするところに數千年來の因襲があり、脅威があり。懊惱がある。殊にバイブルの如きは羅馬の政治家が戰敗國民の懐柔統御の策として作りしめたる一大偽作に過ぎない。而もこのバイブルの爲めに滅ぼされたる幾多の國家、民族の史上に横たはれる其の惨骸を見よ。  
帝大教授である著者は、二十年の信者生活より矛を逆にして、宗教殊に基督教に向つて如何に挑戦せんとするか。

忽ち第五版

四二用定綴 六二紙價 一冊 並 〇ツ二六 十 製頁ン銀鏡 式 株會 區 田 神 市 京 東 香 八 二 一 二 行發院書海南

東京赤坂表町警察署長  
警視廳警視

前田誠孝著

中形美裝二五六頁(切手代用)  
定價金壹圓叁拾錢 送料八錢(壹割増)

忽第廿五版

# 性的誘惑の種々相とその對策

必ずしも美男子ではなく、又金もなければ地位もない、まして學問など出來よう筈がない。そんな一ヶ所の取柄もない不良青年に、次ぎから次ぎへと教養ある處女、地位ある若き人妻がその尊き純潔や貞操を弄ばれるのは何故であるか。實に彼等不良青年は吾々人類すべての大敵である。吾人は一致協力して、社會の安寧秩序の爲めに恐るべき不良の徒を驅除し盡さねばならぬ。

他なし、「敵を知り、味方を知る者は、百戰百勝」故に誘惑術の一大天才たる彼等不良青年が或は獨創的に、或は同志と共に日夜心膽を錬つて編み上げたる秘中の秘たる彼等の作戰計畫を知るのが第一の對策である。前田警視が此の度、秘藏の記録を公にせられたる本旨は又實に技にありと信ずる。

## 「性的誘惑の種々相」…内容の一端から

都會に於ける誘惑の種々相…男に對する女の誘惑…女に對する男の誘惑…其他の魔の手…誘惑の實例と其防止策…妻を殺した男…不思議な手紙…手紙の真相…一女學生の日記(原文のまゝ)…大學生の結婚詐欺…なげさん…千萬鬼査行…環境と誘惑…夏の婦人と誘惑…夏の婦人の生理と心理…巧妙な極めた汽車中の誘惑手段…聖き教會を悪用する美しき誘惑者…夜の魅力…文明と都會と夜…性慾と犯罪との關係…貧富と性との關係…性的犯罪の原因…妻の不貞から…夫婦の年齢から…夫婦の無理心中…婦人の心理…嫉妬…ヒステリー…月經…單獨犯…婦人と職業…危險…自暴自棄…カフエー…女給…純不良兒…誘惑…思想…趣味…虐待…虛榮…破廉恥…殺人の心理…殺人の原因…殺人の方法…變態性慾…性慾倒錯…少女の戀愛共産同盟…お艶殺し…變態心理…時代思想と…旅館に連れられて…公園にて…一夜の夢…嘔き…戀愛思想…就職を利用して…不案内を利用して…思想の共鳴を利用して…興味を利用して…目的を利用して…勉學を利用して…家庭の不和を利用して…虚榮を利用して…旅行を利用して…性慾心理を利用して…痴情を利用して…失戀を利用して…女の情慾熾烈を利用して…不倫…姦婦私とく…乙女心をかき亂し…空間探し…人肉取引市場…舊知の娘…錦紗縮緬…婦人の性的壓迫の刺戟…心身の弛緩を利用…嬌態…色彩の亂舞…婦人の性的興奮…生殖腺に作用して…より挑發的…接觸…優越感…熱い呼吸…次ぎに彼女に…カーチンの背後に…歡樂境…性慾不満と性慾濫費…富豪の令嬢の淫賣…自由にならば…良家の令嬢二十數名を犯した老爺…性的濫費殺人…女の精神障礙狀態…少女凌辱…感情の制御亂れて…衝動的換敵性…迷信…透視術…情死の時期…かげま…支那の相公…公賣笑婦の特質…賣笑婦の心理…等…等！

〔埋草〕 油斷の出來ぬ人…姓名詐稱者破法…悪い家庭に育つた少年少女は…義憤に燃えた青年の腕(實は誘惑術の大名手)…女の顔を見る心得…五十餘銀貨一つで釣上げた百萬長者の一人娘…等

東京赤坂表町警察署長  
警視廳警視

前田誠孝著

中形美裝三二九頁  
定價金壹圓八拾錢 送料八錢 (切手代用)

好評第六百版

# 乱れては男のSEXUALITY

不良少年の走狗となつて、無垢の處女を不良少年の犠牲に捧げ、さうした行爲は不良少年の行爲の中で一番恐ろしいものとされてゐる。しかも彼等の方面から見ると、これほど簡単にこれほど痛快な手段はあるまいと思はれるのである。同性へはスグに心を許すものである。まして不良少女と言つても顔に烙印が捺してある譯ではないし、彼等の伶俐さで、世間馴れたものでもない。普通の少女以上の温順な態度で親切にかしに世の處女に近寄る時、信じ易い彼女等が全然批判力を失つてしまふのも無理ではない。誠に薄氷を踏むやうな危険極る現代だ。吾人は切に父兄の周到なる考慮を促す次第である。

本書は性的に醒る事の極めて早い、不良少年少女達がこんな経路で、こんな風に墮落したか、そんな性的に醒る事をするか、彼等の大人さへ想像の及ばぬ程の悪魔的な深刻さを持つてゐる。彼等の性的興味は、とても普通の大人さへ想像の及ばぬ程の悪魔的な深刻さを持つてゐる。て、本書を繰る一頁毎に燃える様な情熱の場面が展開される。興味津々として寢食を忘れて居る。蓋し、世を警め、人を教ふることは、恐らく論議や聖書以上ではあるまいか。

東京赤坂表町警察署長  
警視廳警視  
前田誠孝著  
中形美裝三二九頁  
定價金壹圓八拾錢 送料八錢 (切手代用)  
南海書院發行  
株式會社  
東京市神田區  
表町二丁目

## 「罪の子となるまで」…内容の一端から

彼女の青春……性的能力……只一人の男子に限るは……苦痛なしに二三人の……自由意志に基いて……女の行方……性的孤獨に悩まされて……淫蕩な女の反映……異性に對する武器……幼々しさを粧ふ……男装……人影稀れな……潜む女性の正體……妙齡なれば……開花を誘ふ……産恥の影も見えず……異性的な……優越の色……幻滅……胃される覺悟……女性最後の情炎に觸れ……孔雀娘……葉子淪落の淵へ……鼓……微妙な戦き……蛇……二重人格の未亡人……情熱の餘蘆に苦しんで……戀に焦れながら……孤獨の呪咀……肉の巷へ……箱入娘……戀に破れた高子……性的破産に陥つて……悲しき復讐白糸の如く……教師に依つて搖がされた……黒手組……銀座の誘惑……花子の手紙……性生活を原始時代に戻さうと……性的異常の片鱗を見て……二人はかうして當然……おとし穴……暗夜行路……拳骨の嚙き……還境が投げかける……狂言の筋書……心浮たつて……禁斷の木の實……歌留多會の夜……心の隙から吹き込んだ……全身を靡れさせた實例……謎……ふらくと主人の居間へ……顔を幻に描き……坊ちゃんと花や……哀樂の空氣にへそを噛む悔恨……爛れるやうな淫蕩な雰圍氣を慕ひゆく……心の惱……答……自嘲……かうした實例を何んと見る……乗する機會……晝行燈……想像も及ばない……強烈な刺戟……そして陰惨な……伯母の歎を……破鏡に泣く人妻……心の隙間へ、誘惑はダニの如くに……隙だらけの女心……情熱の前には盲……呪の大ナイフ……令嬢おさま……放縱に狎れし……M8俱樂部……海に山に……誘惑の網……死灰の如く……浪子と母……温い人間愛……感情はまた熾烈……涙……まる裸……美貌……薄命を因縁……充されぬ慾望……鉄……肉體的の慾望……戀の曲……異性を戀ふて孤獨を忘れ……暗い陰影……おだて上げ……幻覺と踊る……ひと度遂げる……狡智……どんな嬌態……若々しい命……蠱惑的に洗練等……等！



◀ 評 好 大 ▶

# 野里の知識

忽ち十五版・昭和版出づ

清新な絹表装中型四一五頁

本書の眞價は世評が證明

東京朝日新聞に「野里の知識は、野球界の常識を、一般の讀者に紹介するに、最も適したる書である。」と評す。東京朝日新聞に「野里の知識は、野球界の常識を、一般の讀者に紹介するに、最も適したる書である。」と評す。

元慶應義塾大學野球部主將  
現大阪毎日新聞野球部選手

森 秀 雄 著

ブレイする人の野球の知識

定價貳圓貳拾錢・送料拾錢

野球の知識は、野球界の常識を、一般の讀者に紹介するに、最も適したる書である。野球の知識は、野球界の常識を、一般の讀者に紹介するに、最も適したる書である。

東京市神田区保町二丁目 南海書院發行 株式會社 振替貯金 東京八二一

60  
876



Nankai Shoin.  
TOKIO.